

# ボールの特性レポート

## BALL REPORT



ボール名	715C	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.520	△RG	0.052	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

**テストボール：715C**

フレアーの幅  インチ

PAPからピンとの距離  4 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

番

**比較対照ボール：505C**

フレアーの幅  インチ

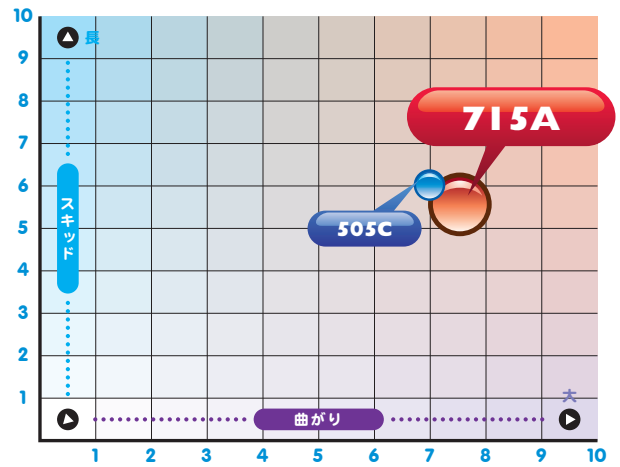
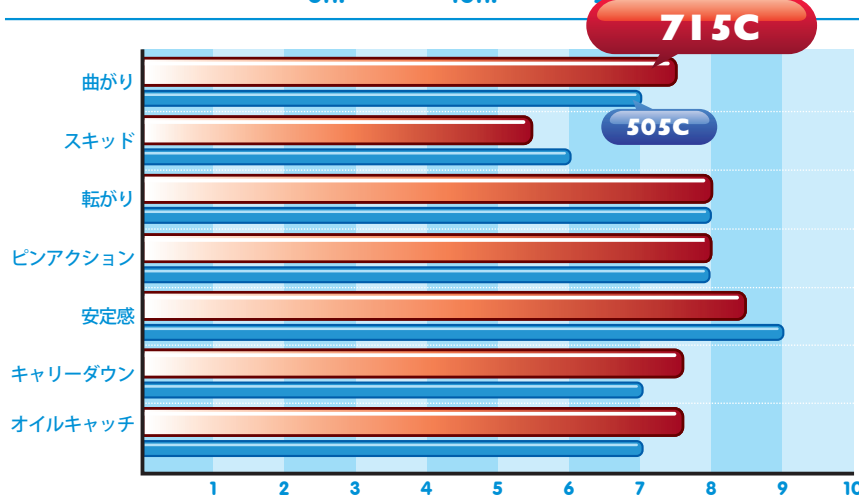
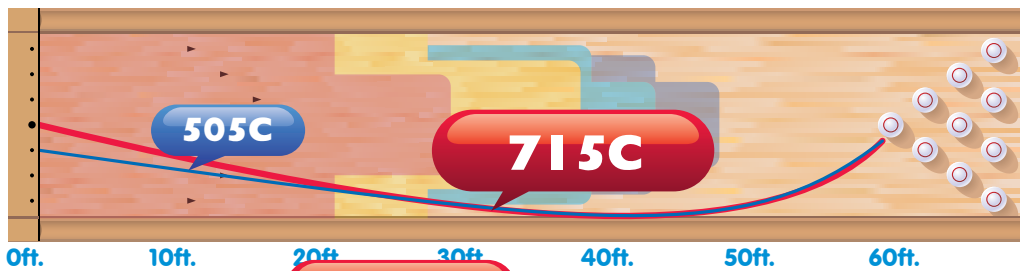
PAPからピンとの距離  4 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

番



### ボールの評価

前作505Cは発売と同時に即日完売をし、2回にわたる追加オーダーをも完売。トラック社が導き出した”5”と”C”の組み合わせは多くの方に受け入れられ、同時にプロトーナメントにおいても優勝に導くボールとしてプロアマ問わずその性能を如何なく発揮しました。今回トラック社はその後継モデルとしてこの715Cをリリースします。

505Cが多くの人に受け入れられた要因はやはり扱い易さでしょう。”5”という性能でありながらオイルに対しての弱さはあまり感じられず、先で暴れる事のない”C”のコントロール性能とのマッチングの良さ、同モデルの505Aや715Aよりも先での過激さには劣るものの、「的確にポケットまで運べる」ことが多くの支持を頂けた理由だと思えます。

そのコントロール性能をそのままにオイルに対しての強さを”7”のレベルに引き上げたのがこの715Cで、投球したイメージでは比較投球した505Cよりややスキッドは短くなり、”7”相応のオイルは必要になりますが、バックエンドそのものは505Cと同等のリアクション性能で、リアクションイメージを変える事なく”5”と”7”とのカバーストックの強さの違いによるラインの差を感じて頂けると思います。この715Cがあれば505Cのイメージでさらにオイルを求めることができ、同モデルである715Aの先で動くイメージの急激なライン変化を伴わなくて済むこと。私の感じたそのものがトラック社の開発コンセプトであり、”5”から”9”までを使い、全てのコンディションをトラック社だけで簡潔に賄えるナンバー表記であるのです。

505Cをお持ちの方は同じレイアウトでカバーストックの差だけでアジャストが可能。トラック社新春第1弾はこの715Cからのスタートで、更なる飛躍の年となることでしょう。

### 特記事項

**505Cの性能そのまま”7”のカバーストックヘバージョンアップ。**  
**今まで発売された920A・930Tと505Cの間で使用してください。**